

神中しーぶん

平成26年
6月24日

神原中
不定期13号

安全学習支援!!

—薬物乱用防止についての講話—

去る二十日(金)五校時に、一年生対象にした安全学習支援講話を行いました。講話をしたのは、沖縄県警察本部生活安全部少年課の比嘉勉警部補を招いての講話でした。司会の平田先生の「はじめのあいさつ」の後、名嘉ゆり子校長先生による「講師紹介」に続いて、比嘉さんによるスクリーンを活用しながらの「講話」、「質疑応答」、生徒代表による「お礼のことば」と続きました。

なぜこの時期にこういう話をするのかというと、薬物の誘惑はいつでもあります。今もあるだろうし、将来もあります。大人になって、三〇、四〇、五〇、六〇、いくつになってもあります。早めに薬物に対する知識を学ぶことによって、その誘惑に打ち勝つて欲しいという思いから話をしています。今日学ぶことは、将来必ず役に立ちます。

講話の内容は、①未成年者の喫煙について②未成年者の飲酒について③違法薬物について④脱法ドラッグについて⑤の四つです。

薬物とは？自然界の物質及び化合物に由来して化学的に生成された物質・薬品のこと、医療に使うときは医薬品、それ以外の時は薬物といえます。化学的に生成されたタバコやお酒も薬物扱いになり、薬物乱用の対象になる。

沖縄県内で喫煙で補導された少年は、23.34人。そのうち中学生が3.99人、高校生が1.88人でした。どうして喫煙が禁止されているのかというと、明治三十三年交付された「未成年喫煙禁止法」

学習のねらい!!

今回の安全学習支援は、
①薬物依存による身体への害やそれに伴う被害の現状を知る。
②薬物使用の低年齢化や増え続ける薬物乱用による犯罪の現状を知る。
③薬物は身近にあるという危機回避能力を高めることとともに、危険回避能力を育成を図るとして実施されました。

お礼のことば!!

生徒代表一赤嶺優実一

今日は、忙しい中私たちがのたうめにお話をいただきありがとうございます。成長の非常に重要な時期に、先生方から貴重なお話を聞かせていただき、心から感謝の気持ちでいっぱいです。これからも先生方からのお話を聞き、心掛けていきたいです。



質問タイム

左下からつづく!!

多くの手内さにあたり、県内各地で麻薬の取引が行われており、その中には、中国や東南アジアなどから、麻薬が大量に流入している。麻薬の取引は、非常に危険な行為であり、多くの人が被害を受けている。また、麻薬の取引は、犯罪の温床となっており、社会の治安を脅かしている。そのため、麻薬の取引を断絶し、犯罪を許さない強い心を持つことが重要である。

それは、ダメだよ
悪いことを断る勇気
犯罪を許さない強い心



タバコには依存性もあるので、値段が高くなっていくと買わなくなると言われています。金銭的にも、一日一箱四百円、一年三百六十五日と計算していくと、一年で149,650円、十年で1,496,500円、五十年では7,482,500円になり、一日二箱のヘビースモーカーだと一千五百万円近くにもなります。未成年は店で買うことができないので、タバコを得るために強盗等の犯罪に走ることもある。

次に、平成二十五年に飲酒で補導された少年は1.88人で、うち中学生が0.1人でした。その中の100名以上が集団飲酒という法律があり、その中で「満二十歳に達するまでは、タバコを喫することを得ず」となっている。

また近年では、喫煙できる場所等についても色々な制限があるのが現状です。タバコには四千種以上の化学物質が含まれており、そのうちの二千種以上が有害物質(発がん物質・ニコチン等)である。それで、「タバコは百害あって一利なし」といわれます。喫煙者は、タバコを吸わない人に比べて、膀胱がん1.6倍、食道がん2.2倍、肝臓がん3.1倍、肺がん4.5倍、喉頭がんに至っては32.5倍も高くなる確率が高い。

大麻は、麻薬と同じように、非常に危険な行為であり、多くの人が被害を受けている。また、大麻の取引は、犯罪の温床となっており、社会の治安を脅かしている。そのため、大麻の取引を断絶し、犯罪を許さない強い心を持つことが重要である。

それは、ダメだよ
悪いことを断る勇気
犯罪を許さない強い心